

公立大学法人宮城大学の
業務の実績に関する評価結果
(令和5年度)

令和6年9月

公立大学法人宮城大学評価委員会

令和5年度 公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果

I 評価の方法

委員会による評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

なお、項目別評価は、業務実績報告書の様式に示す項目ごとに、その状況を次の5段階で評定することにより行う。

評定	評 定 項 目	判 断 の 目 安
S	特筆すべき進捗状況にある	委員会が特に認める場合
A	年度計画を順調に実施している	自己評価の評定がすべて「Ⅳ」又は「Ⅲ」
B	年度計画をおおむね順調に実施している	自己評価の評定で「Ⅳ」又は「Ⅲ」がおおむね90%以上
C	年度計画の実施にやや遅れがある	自己評価の評定で「Ⅳ」又は「Ⅲ」がおおむね90%未満
D	年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある	委員会が特に認める場合

II 項目別評価

(1) 評定の状況

項目	S 特筆すべき 進捗状況に ある	A 年度計画を 順調に実施 している	B 年度計画を おおむね順 調に実施し ている	C 年度計画の 実施にやや 遅れがある	D 年度計画の実 施が遅れてお り、重大な改善 事項がある	計
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 教育に関する目標を達成するための措置						
0		7	0	1	0	8
2 研究に関する目標を達成するための措置						
1		1	0	0	0	2
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		2	0	0	0	2
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		3	0	0	0	3
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		3	0	0	0	3
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		2	0	0	0	2
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置						
0		3	0	0	0	3
全体	1	21	0	1	0	23

(2) 項目別評価の具体的な内容について

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目No.1～4）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」または「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 卒業生就職率、看護師・保健師国家試験合格率ともに100%を達成している点は素晴らしい。良い学生のリクルートのための活動を種々、続けている。
- ・ 第一志望者の割合が目標を上回っている。文科省の入学者選抜好事例に選定された。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.5～6）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」が90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施がやや不十分であると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学院の定員充足率が71.2%にとどまっているが、種々の取り組みが為されており、今後の志願者増が期待される。
- ・ 入学定員充足率が定員数に達していないことから、現状の評価は妥当である。看護学科の出願資格者の拡大や学内の志願者の発掘・育成の活動に期待する。
- ・ 看護学研究科で必要な実務経験年数を引き下げるなど、学生確保の工夫が見られる。

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目No.7～9）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 宮城大学教学アセスメントプランに基づき、各種ポリシーに基づいた施策が

行われた。とくに教学IRの推進に関して、直近5年間分（全学群・全研究科2,259名分）の教務・入試・キャリアに関する実データを収集したことは特筆に値する。学生スタッフ（SA）の活用や、「災害看護プログラム」などの独自のカリキュラム実施も素晴らしい。

- ・ 教学IRの推進に係る「情報戦略推進基本計画」及び「情報戦略推進に係るデータ取扱要綱」を策定した。グローバル人材の育成を推進するため「宮城大学・JICA連携グローバル・プログラム」を計5科目開講した。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.10～12）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 食産業学研究科ではデータサイエンスの取り込みを行っている点は先進的といえる。リカレント教育の推進において、看護学研究科では「みやぎテレナース育成プログラム」を開設したことも特筆すべき点といえる。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 教育研究組織（法人自己評価項目No.13）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 少子化に伴う18歳人口の減少の現状を踏まえ、今後のリカレント教育の推進及び拡大に期待する。
- ・ 新たに「リカレント教育推進本部」を設置したことは重要である。

ロ 教員・教員組織（法人自己評価項目No.14～16）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教員評価要綱に基づいた評価結果を勤勉手当の成績率に反映させている。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

イ 学修支援（法人自己評価項目No.17～19）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 学生への意見徴集に関して、令和5年度回答率89.50%を達成したことは素晴らしい。ブラインドサッカーを取り入れたり、食をテーマとした太白キャンパスでの企画等も、学生への支援に繋がる取り組みとして高く評価される。基盤必修科目の欠席学生へのきめ細やかな対応、学生相談室のメンタルヘルス向上の活動、経済的な理由による就学困難学生への対応なども特筆に値する。
- ・ 今後も心身の不調やストレスのある学生に対するメンタルヘルスクア等サポートが重要となる。

ロ キャリア形成支援（法人自己評価項目No.20～21）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ キャリア・インターンシップセンターの活動が積極的に行われている。入学後の学びと卒業後の就労状況との関係についての分析については、今後のデータ分析に期待したい。インターンシップの紹介や、講義やキャリア開発室を通じた遠隔形式の面接等対応スキルアップも高く評価される。
- ・ 卒業生就職率などの指標が100%を達成しており評価できる。

2 研究に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.22～24）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であるものの、「Ⅳ」の自己評価の要因である外部資金獲得総額が目標を上回り、毎年度増加していることについて、優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 外部研究資金について、目標金額を上回る額を獲得し、毎年度増加していることは、評価できる。

- ・ URA人材が外部資金獲得の前後の支援を行っている点は特筆に値する。「宮城大学研究・共創フォーラム」を実施するとともに、研究推進・地域未来共創推進費を活用した「研究成果公開促進助成制度により研究支援を推進している。研究倫理プログラムについても実施されている。

3 教育研究環境の整備に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.25～27)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 第3期中期計画における施設・設備の修繕計画に位置付けた大規模修繕工事が無事に為され、キャンパス整備が促進された。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.28～31）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 地域貢献は創立理念でもあるので、これからもしっかり取り組んでほしい。
- ・ 種々の地域貢献の取り組みが為されている。DX を取り入れた活動も推進している点は素晴らしい。学生が主体的に取り組む「高齢者カフェ」「認知症カフェ」なども特筆すべきである。
- ・ 選挙投票率向上の試み「センキョ割 in 宮城」は評価できる。

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.32～33）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ ラーニングコモンズ等の活用とともに、学生が長期留学できる協定校が、フィンランド、アメリカ合衆国、オーストラリアに拡充した。

- ・ 「JICA連携グローバル・プログラム」において、国際協力論や海外演習など新規開講4科目と合わせて計5科目開講を実現し、本格的な展開が始まったことは評価できる。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.34～35)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 理事長と学長がそれぞれの立場でしっかり責任を果たすことによる成果が出ている。
- ・ 理事長・学長による執行体制とともに、内部監査体制を強化し、内部監査の充実を図ったことは素晴らしい。IR活動を着実に推進し、学内情報のデジタル化と可視化を目的とした「情報戦略推進基本計画」を策定したことも高く評価できる。業務能率の一層の向上とワーク・ライフ・バランスを推進するため、時差勤務制度の利用を促進していることも特筆に値する。

2 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.36～37)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 人事の適正化に関して、職員の公募、業績評価制度の適正化、FD、SDの実施等、種々の配慮が為されている。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.38)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 庶務事務システムを利用した各種申請等について、事務職員に加え教員を対象とした運用を開始し、業務改善及びペーパーレス化を推進したことも素晴らしい。

しい。

- ・ 業務の効率化・合理化の観点から、業務改善の取り組みがなされていると評価する。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.39～40)

【**評定**】 A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 公開講座の受講料引き上げ、大学施設内でのキッチンカー営業に対して施設使用料の徴収など、学内資源の有効活用を図っている。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.41)

【**評定**】 A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 情報関連の3契約について、令和5年度から契約を一本化し、業務の簡素化、合理化を図り、事業費用の削減に努めたことは高く評価できる。
- ・ 業務の外部委託等について、契約統合に伴う具体的な業務の合理化と事務費用の削減額についての検証が必要である。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.42)

【**評定**】 A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 光熱水費高騰や、大雨による災害復旧の対応を踏まえ、資金流動性を第一に考えた預金運用を継続して行ったことはリーズナブルである。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.43～44)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 認証評価機関に対し令和元年度の改善課題に対する改善報告書を提出し、「是正勧告なし」という通知を受けた。

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.45)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 内部質保証実施委員会において、各部門の自己点検・評価の進行状況の管理を行うとともに、令和7年度の認証評価受審に向けた評価項目の確認も行い、改善課題の洗い出しを行い、さらにその内容を評価委員会で共有し、学内の教育研究体制の再検討や規程の改正等を行った点は適切である。

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.46)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 建物の老朽化に対応し、令和5年度に予定していた工事を着実に実施し、事業の請差を活用し追加の工事を行った。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.47～48）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 事業場衛生委員会を毎月開催し、時間外勤務の状況、健康診断やストレスチェックを実施したほか、産業医による面談・職場巡視等を適切に行った。また、全教職員向けにストレスに関する共通認識を深めるためのセミナーを実施し、職場における教職員の安全、健康、職場環境の確保等について、随時、注意喚起等を実施した。
- ・ メールに係る情報セキュリティに関する講習会の動画配信を2回行っている。

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.49）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 人権侵害防止・対策本部会議を開催し、「人権侵害（ハラスメント）の防止に関する指針」の周知を図るとともに、新たにリーフレットを作成し、ハラスメント防止に関する意識啓発と予防に取り組み、また、性暴力防止に関する規定の検討を行った点は素晴らしい。

【法人の自己評価における特記事項に関する意見等】

（教育について）

- ・ 全学を上げてデータ取得やIRへの移行を図っていることは県立大学として特筆に値すると考えられる。きめ細やかな学生への対応が為されている点も素晴らしい。

（研究及び教育研究環境の整備について）

- ・ オウンドメディアとして独自に「宮城大学研究ジャーナル」を刊行している点、ポッドキャスト番組の配信を行っている点は、特筆に値する。
- ・ 多数の学内外の相談対応や企業等訪問を行い、目標を上回る学部資金を獲得できたことは、研究推進・地域未来共創センターのコーディネーターによるURA機能が有効に働いた結果であると推察される。

（地域貢献及び国際交流について）

- ・ 引き続き、地域のシンクタンクとしての役割を果たしていくことが望ましい。
- ・ 海外派遣学生枠（200人／年 令和8年度）は、いずれ見直した方がいいかもしれない。

（業務運営及び財務内容、その他について）

- ・ 「IR活動を着実に推進し、より効率的な大学経営の在り方について検討を進めるため、学内情報のデジタル化と可視化を目的とした「情報戦略推進基本計画」を策定したことは特筆に値する。
- ・ 外部への施設貸付を原則可とし、敷地内でのキッチンカー営業の受入に当たり施設使用料を徴収することにより、学内資源の有効活用に寄与するとともに、学内者にとってのアメニティ向上にも寄与できたことは素晴らしい。
- ・ 次期認証評価機関による第三者評価受審（令和7年度受審）に向け、各評価機関の評価項目等を勘案し、一般財団法人大学教育質保証・評価センターを受審機関とすることを決定して準備に当たっている。
- ・ 各学群等に相談員を配置するとともに、学生相談カウンセラーや保健指導員との連携を図るなど相談体制の充実に努めた点は高く評価される。全教職員・学生対象の防災訓練を動画視聴講習及び実地避難訓練のハイブリッド方式により実施したことも素晴らしい。

Ⅲ 全体評価

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- より良い学生のリクルートに向けた種々の取り組みを進めるとともに、皆が安心して過ごすことができるキャンパスの環境整備をハード面、ソフト面、両面から進めている。
- 大学院への社会人入学の需要、宮城県におけるリカレント教育への需要については今後注目すべき重要事項である。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

- 宮城・東北に貢献する大学として、喫緊の重要課題である少子高齢化対策に取り組んでいただきたい。地方が取り組むべき人口減少緩和策のモデルを、地域と共に構築していただきたい。そのためには、研究推進・地域未来共創センター等を活用し、県を始め各市町村が連携しやすいような対応策を作って頂きたい。また、県には積極的な支援をお願いしたい。
- 公立大学として地域に根ざした教育・研究・社会貢献活動を推進している。
- 国際化対応については、地域貢献とのバランスをどのように取っていくのか、国際化対応のために必要な二言語化への対応等の課題を洗い出しておくことが望ましい。
- 短期留学プログラムや JICA 連携グローバル・プログラムは、世界への関心を学生に持たせる事業として、大いに評価している。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- 着実に実施する計画を丁寧に組まれていると感じる。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

まとめ

法人による自己評価においては、法人自己評価49項目中3項目において「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」、45項目において「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」、1項目について「Ⅱ 年度計画を十分に実施していない」とされている。

当委員会としては、法人の令和5年度業務の実績について、項目別評価の結果も踏まえ審議した結果、全体としては年度計画を順調に実施しているものと評価する。

令和5年度は、学生のリクルートのための活動を積極的に行った結果、学士課程の入学者において第一志望者の割合が目標を上回った。また、研究推進・地域未来共創センターによる支援が有効に働き、目標を上回る外部資金の獲得に繋がったほか、推進本部を設置してリカレント教育に取り組んだことや、多くの地方自治体・地域企業と連携して交流事業や共同研究を実施したことなど、地域貢献に向けた取組みが積極的に行われた点を評価する。

一方、大学院課程の定員については、看護学研究科で必要な実務経験年数を引き下げるなど、学生確保の工夫が見られるものの、充足率が目標を下回る状況が続いており、引き続き改善が望まれる。

急速に少子化が進行する中、将来にわたって持続可能な社会を実現するために、宮城大学には、地域に根ざした教育・研究・社会貢献活動の拠点として、他のモデルとなるような取り組みを地域と共に構築することを期待したい。